

(4) イギリスの植民地のころ

イギリスは、キャンディ王国と手を結び、オランダを追い出しました。1802年のことです。この時、スリランカはイギリスによりインド帝国に編入されてしまいました。

そして、1815年、キャンディ王国は滅ぼされました。

イギリスは、1822年にコーヒーや香辛料（スパイス）を積み出す港をゴールからコロomboに移しました。みなさんも知っているフォートの時計塔はこの時代の灯台で、1837年にできました。

スリランカを我がものにしたイギリスは、はじめコーヒー・プランテーションに力を入れました。しかし、コーヒーの栽培は病害のため大打撃を受けたので、1870年頃から、紅茶の栽培にかえました。その後、ゴム、ココヤシ、香辛料も大規模に生産するようになりました。

これらのプランテーション農場で働かせるために、インドから多数のタミル人がつれてこられました。これらの人々をインド・タミル、それ以前からこの島に住むタミル人をスリランカ・タミルと区別して呼ぶこともあります。

* プランテーション・・・
ゴムやコーヒー、お茶などの商品作物を広い農場で大量に栽培する農業のこと。熱帯地方で行われる。

イギリスは、キリスト教とともに英語を広めることに力を入れました。英語を話せると役人として採用されたりするので、英語が広まり、イギリス人のような生活をめざす人々も出てきました。

こうしてフォート地区を中心にして、町並みや住宅もイギリス

風になってきました。市内のおもな道路や公園の名前は、最近^{さいきん}シンハラ語にかえられましたが、今でもロード、ストリート、アベニューと言う^{えいご}英語が使われています。

教育^{せいど}制度や役所のしくみもイギリスから学んだものです。

1910年^{ねんご}頃から、この国では^{どくりつ}独立したいという気持ちが高まってきました。1931年には、21歳^{さいいじょう}以上の男女に^{せんきょけん}選挙権^{あた}が与えられました。

第二次世界^{たいせん}大戦後の1948年2月4日に、インドやパキスタンとともにスリランカは独立しました。(この日を^{きねんび}独立記念日として国の^{しゅくじつ}祝日としています。)

ポルトガル、オランダ、イギリスと400年以上^{つづ}続いた^{しよくみんち}植民地^ちの時代がようやく終わったのです。



イギリス植民地時代に作られた^{たいほう}ゴールフェイスの大砲